

B 2 7 初 級 (TV 聴講あり)	<h1>プロの技にせまる特許情報検索法 (I)</h1> <h2>～的確な特許調査の手法～</h2> <p>製品イメージを捉え、自社事業に即した特許調査とは？ 調査の着手段階、検索式作成から調査結果のセルフチェック方法</p>
講 師	酒井 美里 (スマートワークス㈱ 代表取締役、元セイコーエプソン㈱ 知的財産本部)
日程・会場	東京本会場 → TV会場：JPDS 名古屋、大阪、九州各営業所セミナー室 6月3日(木)、11月25日(木)、2022年2月15日(火)
時 間	1日間 (10:00～16:00) // 昼休憩 11:45～12:45
アクセス	https://www.jpds.co.jp/company/access.html
定 員	東京会場 24 名 // TV会場：各会場共 10 名 (先着順申し込み)
受講料	本会場：20,000 円 (税込 22,000 円)、TV会場：16,000 円 (税込 17,600 円)
対 象	特許調査担当の中級者
内 容	
<p>特許調査担当者(サーチャー)が実際の特許調査の場面において、依頼された特許調査内容(技術テーマ)を正確に把握した結果を導くことは易しくありません。依頼者とのコミュニケーション不足や思い込み、調査結果の検証不足によることもその一因です。</p> <p>「調査の着手段階の確認ポイント、検索式立案から調査結果のセルフチェック方法」までの一連の流れまでを、企業向けの特許調査経験豊富なプロサーチャーが丁寧に解説します。</p> <p>製品イメージを捉え、自社事業に即した先行技術調査で必要とされるプロのテクニックを身に着けたい方向けにお勧めします。 ※旧 特許情報検索に必要な基本スキル</p>	
プログラム	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 特許調査の前にすべきこと ～事前ヒアリングのポイント～ <ul style="list-style-type: none"> ・ コミュニケーションとヒアリングの類似点と違い ・ 技術者と知財担当者との技術認識レベルを一致させる ・ ミスなく・漏れなく・誤認なく ・ 調査ヒアリングの事前準備 ・ ヒアリング事例とチェックポイント 2. ヒアリングから検索式作成へ～ <ul style="list-style-type: none"> ・ 50字要約について ・ 「共起語」について ・ 仮説の設定/ヒアリング ・ 調査方針の設定/事例：健康食品 ・ 仮説と検索式の修正/ハズレ公報からの読みとり ・ 同義語・類義語追加と本検索式への展望 ・ 事例による試し検索からの調査展開予測紹介 3. 調査結果の自己チェック方法 ～妥当性を確認～ <ul style="list-style-type: none"> －失敗事例の紹介 ～どんな状態がうまく行っていないのか ・ 検証方法 ～ヒアリング結果で得た「課題」、「発明の本質」、「用途・効果」との対比 ・ 検索方針の立て直し方 	

【申込み】

当社ホームページよりお申し込みください。 URL: <https://www.jpds.co.jp/seminar/application.html>

【備考】

セミナーご参加の方で事前にご質問や特に説明をお聞きになりたい内容がございましたらお申出下さい。セミナー当日に可能な限りお答えさせていただきます。

【日本弁理士会継続研修について】

本研修は、日本弁理士会の継続研修としての認定を申請中です。本研修を受講し、所定の申請をすると、外部機関研修として単位が認められる場合があります。ただし、TV会場での聴講の場合には継続研修の認定対象外となります。